

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-336273

(43)公開日 平成5年(1993)12月17日

(51)Int.Cl.⁵H 0 4 N 1/00
1/387

識別記号

B 7046-5C
4226-5C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全3頁)

(21)出願番号

特願平4-142532

(22)出願日

平成4年(1992)6月3日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 山内 一慶

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式
会社内

(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

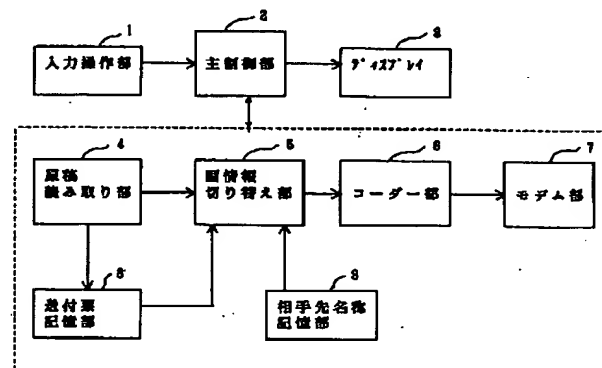
(54)【発明の名称】 ファクシミリ送信機

(57)【要約】

(修正有)

【目的】 あらかじめ記憶してある送付票の画情報と相手先名称の画情報を合成して送信することにより送付票などを書く作業の削減と、送付票に使われる用紙の削減とを行う。

【構成】 送付票の画情報を記憶する送付票記憶部8と短縮ダイヤルに対応した相手先名称を記憶しておく相手先名称記憶部9と入力操作部1を有し、送信時に入力される短縮ダイヤルに対応する相手先名称や入力操作部1より入力する相手先名称を送付票の画情報と合成して送信する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 あらかじめ送信する原稿に付加する送付票から読み取った画情報を出力する原稿読み取り部と、前記送付票の画情報を記憶する送付票記憶部と、短縮ダイヤルに対応した相手先名称を記憶しておく相手先名称記憶部と、前記送付票記憶部に記憶してある送付票の画情報を表示するディスプレイと、前記相手先名称の画情報が前記送付票の画情報に合成される位置を設定する入力操作部と、送信時に前記送付票の画情報と前記相手先名称の画情報とを前記設定の位置で切り替えて出力する画情報切り替え部とを有することを特徴とするファクシミリ送信機。

【請求項2】 前記画情報切り替え部において、前記原稿から読み取った画情報と前記送付票の画情報とを切替えて出力することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ送信機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はファクシミリ送信機に関し、特に送付票などの画情報を送信する時に送信原稿の画情報とともに送信するファクシミリ送信機に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来この種のファクシミリ送信機は、一定枚数の送付票などの画情報を登録することができるが、登録文書の相手先名などを変更することができなかったため、登録した相手先にしか送信原稿とともに送信することができなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来のファクシミリ送信機は、一定枚数の送付票などの画情報を登録することができるが、登録文書の相手先名などを変更することができなかったため、その登録した相手先にしか送信原稿とともに送信することができなかった。そのため、他の相手先には、その都度送付票を付けて送信しなければならず、送付票を書く作業と、送付票に使われる記録紙が無駄になるという欠点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明のファクシミリ送信機は、あらかじめ送信する原稿に付加する送付票から読み取った画情報を出力する原稿読み取り部と、前記送付票の画情報を記憶する送付票記憶部と、短縮ダイヤルに対応した相手先名称を記憶しておく相手先名称記憶部と、前記送付票記憶部に記憶してある送付票の画情報を表示するディスプレイと、前記相手先名称の画情報が前記送付票の画情報に合成される位置を設定する入力操作部と、送信時に前記送付票の画情報と前記相手先名称の画情報とを前記設定の位置で切り替えて出力する画情報切り替え部とを有する。

【0005】

【実施例】 次に本発明について図面を参照して説明す

る。図1は本発明の一実施例のブロック図である。

【0006】 図1に示す本実施例は、入力操作部1は操作により装置に対して動作を起動したり、相手先番号、相手先名称および相手先名称の画情報と送付票（定型送付票）の画情報を置換するラインを入力したり、記憶してある送付票の中から送信する送付票を選択したりする。主制御部2は、装置全体の動作を制御する。ディスプレイ3は送付票記憶部8に記憶してある送付票の画情報を表示する。原稿読み取り部4は送付票の画情報を電気信号に変換したり、原稿送信時に原稿の画情報を電気信号に変換する。

【0007】 画情報切り替え部5は相手先名称の画情報と送付票記憶部8から読み出した画情報の置換を行うラインを、入力操作部1により入力されたラインに設定し、送信時に送付票画情報と相手先名称画情報とを切り替えて送信する。コーダー部6は原稿、送付票のデータを符号化する。モデム部7は送信データを変調して回線に送信する。送付票記憶部8は原稿読み取り部4により読み取った送付票などの画像信号を記憶する。相手先名称記憶部9はあらかじめ登録してある短縮ダイヤルに対応した相手先名称を記憶する。

【0008】 次に本実施例の動作について説明する。原稿の送信動作を行う前に、相手先の短縮ダイヤルに対応した相手先名称を相手先名称記憶部9に入力操作部1から入力して登録しておく。次に原稿読み取り部4により読み取った送付票の画情報をディスプレイ3に表示する。次にディスプレイ3に表示された送付票の画情報上のどのラインに、相手先名称の画情報を置換するかを入力操作部1より主制御部2を介して、画情報切り替え部5に入力し、置換するラインを設定しておく。次に原稿読み取り部4により送信する原稿を読み取り、送信する時、登録してあるいくつかの送付票の中から入力操作部1で送付票を選択する。

【0009】 次に、相手先の短縮ダイヤルを入力操作部1より入力すると制御部2は短縮ダイヤルに対応した相手先名称の画情報を相手先名称記憶部9から読み出す。次に送付票記憶部8から送付票の画情報を読み出し、相手先名称の画情報を送付票の設定されたラインに置換する。次に原稿読み取り部4により読み取った送信原稿の画情報とともにコーダー部6、モデム部7を介して送信する。また、短縮ダイヤルする場合には、入力操作部1により相手先情報を入力し、送付票の画情報の設定されたラインに、相手先情報の画情報を置換して送信原稿とともに送信する。

【0010】 次に図2を用いて相手先名称記憶部について説明する。まず、入力操作部1により短縮ダイヤルAに対応した相手先名称画情報Bを登録しておく、そして送信時に入力操作部1により短縮ダイヤルAを入力すると、それに対応した相手先名称画情報Bを画情報切り替え部5に対して出力する。

【0011】次に図3を用いて送付票について説明する。図3は実際に送信する送付票の平面図である。送信原稿とともに送信する時、あらかじめ記憶してある送付票の画情報のD部の情報を送信する。その後、E部の情報は相手先名称記憶部に保存してある相手先情報の画情報を送信する。そしてF部の情報は、また送付票の画情報を送信する。送付票の送信が終わったあと、送信原稿の画情報を送信する。

【0012】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、入力された相手先短縮ダイヤルに対応した相手先名称または、入力操作部より入力された相手先名称を画情報に展開し、送付票の画情報の設定された位置に合成して送信することにより、相手先名称を変更することができるので、その都度送付票などを書く必要がなくなり、送付票などを書く作業の削減と送付票に使われる用紙の削減ができる

効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例のブロック図である。

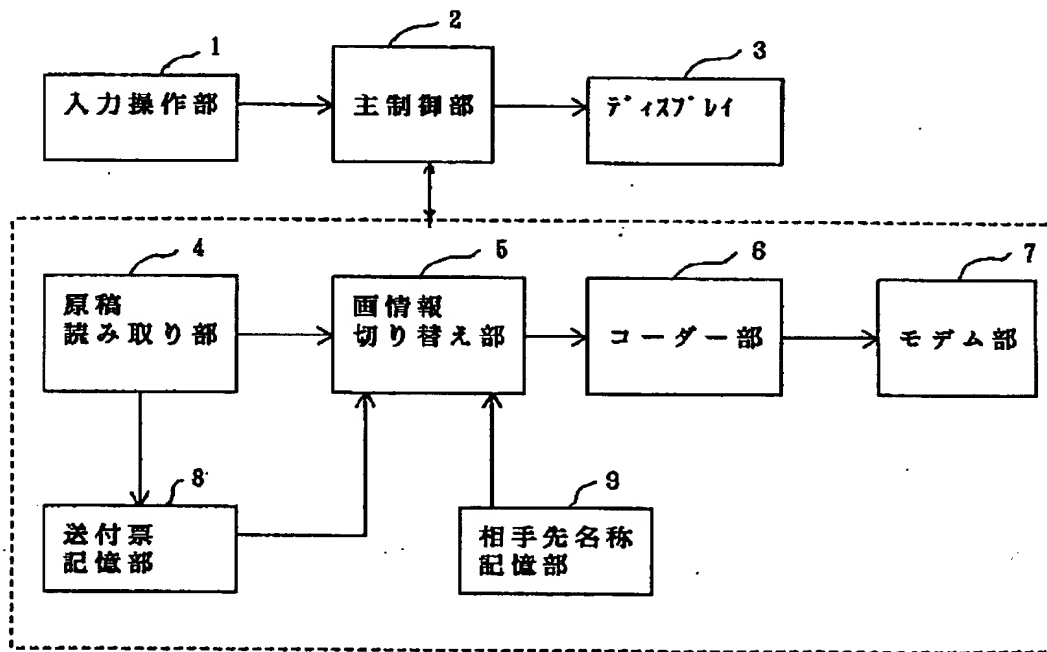
【図2】本実施例を説明するための図である。

【図3】本実施例の送付票を説明するための図である。

【符号の説明】

- 1 入力操作部
- 2 主制御部
- 3 ディスプレイ
- 4 原稿読み取り部
- 5 画情報切り替え部
- 6 コーダー部
- 7 モデム部
- 8 送付票記憶部
- 9 相手先名称記憶部

【図1】



【図2】

短ダ A	相手先名称 B	相手先番号 C
01	abc株式会社	0123456
02	あいう商事	1234567
03	AA商店	2345678
04	株式会社CDE	3456789
⋮	⋮	⋮

【図3】

